

～古賀院長エッセイ～

次代への風



「大数学者の言葉から」

節分、立春を過ごし、梅の香りがほのかに感じられ、春を迎える季節となりました。生命の新陳代謝が盛んになってくるこの時期は心身のバランスも崩れやすく、「鬼は外、福は内」の掛け声で邪気払いを行います。

私の尊敬する人物に、岡潔、という大数学者がおられます。ノーベル賞受賞者の湯川秀樹や朝永振一郎にも数学の講義を行っていた伝説の人です。晩年にはエッセイも多く書かれ、生命についても高い見地から言及されています。その中に、「人にはそれぞれ固有のメロディーがあり、これを保護するために周りをハーモニーで包んでいる。そんなデリケートなものだから、たえず不協和音を受け取っていると、固有のメロディーは壊されてしまう。そうすると、人の生きようとする意欲は無くなってしまいます。」と書かれています。多変数複素関数論という大変難しい課題の世界的先駆者ですから、その言われていることの理解も凡人には難しいのですが、私達医療人の務めは、壊れかけた部分の発見に努め、それを修復できるような環境を提供することだと思います。

春のおとずれに伴った自然の変化に敏感になることで、それぞれの心身の変化にも気づき、対応力も養われます。みなさんも自分のメロディーを乱さないためにも、春を感じに表へ出てみましょう。



森の木敷地内の梅の花（院長撮影）



院長語録

毎朝の朝礼での一訓をご紹介します。

◎結論を導き出す為に「直感」とその後の「検証」は不可欠

◎教科書に載っている事だけではダメ
もちろん古典や基本も大切ではあるけれど
「新時代の医療」においては溢れる情報を処理、駆使する能力が必要

◎患者さんは自分の未来(健康)に不安を抱えている
我々は情報や経験を元に未来を予測して
よりよい結果に導いていかねばならない